



Title	Remarks on Hawaii p4c
Author(s)	N., Masamichi
Citation	臨床哲学のメチエ. 2013, 20, p. 42-63
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24941
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Remarks on Hawaii p4c

Masamichi, N

1. After these experiences, can you believe in p4c?

子どもの哲学インターナショナルフォーラムが兵庫県立大学で開かれる。ハワイで p4c 子どもの哲学を実践している Dr. Thomas Jackson 通称 Dr. J が来る。ワイキキ小学校、アイエア中学校、カイルア高校の先生といっしょに。

どんなひとたちだろう。

Dr. J が話し始めた。いきなりアヒルのドナルドのものまねからスタート。

人を惹きつける魅力のある人だ。

排除の話をしようと思う、ひとしきりドナルドのものまねを終えた J が話す。

ある日、いつものようにコミュニティボールで小学生たちと話していた。その時期の子どもたちにとって、男の子と女の子の間の壁はすごく大きい。その日、男の子たちだけが発言し続けた。わざと女の子にボールを渡さない。なにげない悪意。最後に男の子が、手を上げ続けていた女の子に、にやにやしながらボールを渡した。

涙がこぼれた。



女の子だって、考えることができるんだから。震える声が響いた。学校では排除が起こりやすい。p4cは排除に抵抗する、そういうものであってほしい。

この例は胸にこたえた。フォーラムの直後、つたない英語でJに質問した。私は中学校でp4cを実践している。あなたが言った排除を何度も何度も経験した。それでもあなたはp4cを信じて、次の排除に立ち向かうことができるのか。もちろん、これは自分自身への問いだった。

答えは、イエス。

ハワイに行くしかない。そのとき、そう思った。

2. Plain Vanilla is the simplest form.

ハワイは空気が軽い。

噂に聞いていたワイキキ小学校についた。ずいぶんフェンスが低いんだな、そんなことを考えた。学校をぐるっと囲むフェンスは、日本の城壁のようなフェンスとは比べものにならない。

この小学校の先生たちはどのクラスでも Plain Vanilla (プレーンバニラ) という方法で p4c の授業をしている。

1. 授業が始まるまでにホワイトボードにテーマを書かせておく
2. 投票して、いちばん票が集まったテーマに決定
3. コミュニティボールで話し合う



Plain Vanilla = シンプルなバニラアイス。これが味つけのない一番シンプルなかたちです。オレンジだろうが、チョコレートだろうが、あとは、あなたのお好みに味つけしてください。写真を使おうが、絵本を使おうが、お好きにどうぞ。そういう意味だ。

どうだろう、日本では「おむすび」とでも呼んでみようか。昆布だろうが、鮭だろうが、お好きにどうぞ。いまいち、しまらないな。「バニラアイス」でいいかもね。

子どもたちは p4c Journal というノートを持っていた。(もちろん、ふつうのノート)。次の授業までに、テーマを Journal に書き込んでおいてね。とか、話し合いが終わったときに、言い残したことを書いておいてね、後で見るから。そんな使い方ができる。話している最中にも、熱心にノートに書き込みながら聞いている子がいた。

3. Magic Words and Good Thinkers Toolkit.

小道具が充実しているハワイ p4c。

コミュニティボールを持っていなくても言える魔法の言葉たち。そんなに頻繁に使われてはいなかったけど、ルールが一目瞭然。

IDUS (I don't understand.)

わかりません。

SPLAT (Speak a little louder, please.)

もうすこし大きい声で話してもらえませんか。

POPAAT (Please, one person at a time.)

一度に一人しか話せないよ。

考えを深めるための7つのキーワード。Good Thinker's Toolkit.

小学校ではカードにして使う。高校では教室の前に掲示されていて、いつでも注目を集めることができるようにしてある。

What do you mean? それってどういう意味?

Reason 理由を言ってみよう。

Assumption 前提を見つけてみよう。

Inference 見たことから推論してみよう。

True それっていつも正しいの?

Example, Evidence 例えばこんなことがあるよ。

Counter-example 反例を示してみよう。

4. What they are talking about in Hawaii.

ふたつの授業を見せていただいた。自分は他の人の授業をこんなに見たかったのか、と驚いた。久々に、わくわくしてしまう。授業の細部に意識を集中し、自分の授業と重なるところをじっと眺めた。

授業が始まる。「いま夢を見ていないと、どうして言えるのか」といったテーマには票が集まらず、「プールは好き？」に票が集まった。

先生は Good Thinker's Toolkit の R のカードを手にとって言った。Why do you like water pool? 好きか、嫌いかだけじゃなくって、理由も答えてみましょう。

何度か話には聞いていたのだが、なぜツールキットが必要なのか、

実際に見てみるまではさっぱり分からなかった。

学校では、ただのおしゃべりをどうやって philosophical にするのかという問題が生じる。ツールキットは、良い対話の基準を定めておいて、ファシリテーションの手段にしてしまうという発想で作られている。理由があんまり出ないなあというとき、R のカードを上げて、今日は理由を考えてみましょうと言う。理由を述べるというテツガクの第一歩を教えようというわけだ。

すべってるとおもしろいから好き！長いプールがぞくぞくするから好き。

プールは嫌いだな。そもそも濡れるのが嫌いなんだ。
ぞくぞくする。楽しい。ぞくぞくする。楽しい……。

ぞくぞくする、楽しいという言葉が、何人かの人から出ました。それじゃあ、ぞくぞくすることは楽しいってことなんですか。先生がすこしだけ流れを変えた。この後、わいわいしゃべる感じはなくなったが、話はすこしテツガクっぽくなる。「ぞくぞくするのは楽しい？」という質問は難しかったという子もいた。

あとで、先生に質問してみた。あのとき、なぜ質問を変えようと思ったんですか。——ひととおり理由を言い終わって、すこし発言が出にくくなったからです。——なるほど、全体の空気を見ながらファシリテートしていたわけだ。そういうことって、あるなと思う。



もうひとつ。隣の子と話すのをやめない子もちらほらいた。そういうときは、先生が POPAAT という。それでもだめなら、他の子と場所をチェンジ。あまりにしつこいので先生と場所チェンジなんてことも。

そういう苦勞はハワイにもある。すこしだけ安心する。

5. Everywhere mindful school.

「柔道」とプリントされたTシャツを着た子に「こんにちは」と廊下で挨拶された。なんだかハワイでは日本人は歓迎される。

すげえ。ついつい口走ってしまう。

校舎の至る所に p4c のキャッチフレーズが貼られている。

Flexibility in Thinking (柔軟に考えよう)

Philosophy for Children Opens Mind (子どものテツガクは心をひらく)

Enjoy Life: Live with Humor and Laughter (人生を楽しもう、ユーモアと笑いとともに生きる)

Think Independently (自分の力で考える)

Cooperation & Caring (協力、そしてケア)

極めつけは、職員室の壁にかけられている絵。毎年、みんなで作ると聞いた。Color me Mindful ころを豊かに色づける。学校全体でテツガクにとりくんでいる。すごくそう感じた。

**Enjoy Life:
Live With Humor and Laughter**

Live With It!

白々しい標語なら日本にもある。なぜこの学校のフレーズは白々しく感じないのだろうか。きみのやることが道徳になる。p4cの授業でできること、自分で考えてみる、人の話を聞く、周りを笑わせてみる、それが至る所に貼られているフレーズに一致する。だから、それらすべてが道徳教育として完結することになる。

参りました。

6. Talking about 3.11 earthquake in Hawaii.

学校を変えるために、まず先生が変わる。
教室で生徒たちが自由に話す。先生も職員会議で自由に話す。
なんとワイキキ小学校の会議は p4c スタイルだ。
この驚きはながーいながーい会議に何度も出た人なら分かるはず。

ワイキキ小学校が仙台の小学校に物資の支援をしたという経緯もあって、その日は東日本大震災の映像を見てから話す、という会議だった。

“The Tsunami and the Cherry Blossom”『津波そして桜』という短編のドキュメンタリーがスクリーンに映し出される。
押し寄せる津波。あの地震が起きてしまった日を思い出す。ニュースで見た信じられない映像、津波に襲われる車。間一髪で助かる人。一瞬の差で車ごと流されていく人。二度と身体は海から上がらない。
被災地に咲く桜と、桜の希望について話す老人たち。胸がうずく。

部屋が明るくなったとき、なんとも言えない空気が日本の教師、

韓国の教師、そしてアメリカの教師たちを包んだ。同情と、共感と、そして表現できない何か。それを何とか表現する。ひとりずつ、発言を回す。

妻が日本人なんです。三月十一日は忘れられない日になりました。妻はその日、日本にいたんです。そして、なんとその日は妻の誕生日でした。あの津波の映像がニュースとして伝えられたとき、妻のこと以外何も考えられなかった。そう、ワイキキの先生が話した。

ここで、ハワイという場所で、遙か遠い日本の災害について話す。Empathy という言葉を感じた。なんて不思議なことだと思うと同時に心地良い。ひとびとのすばらしさを感じる。

日本の先生が話す。あの日、私は学校で、子どもたちを何とか守らないといけないと、その感情だけに支配されていました。涙が流れる。学校の運動場で、自分に何人の子どもを守れるか、そのことを考えました。

Inclusion 日本について考えるのは日本人だけじゃない。その職員会議で私は何かもっと大きなものに包摂された、確かに。

Empathy と Inclusion の共同体。ほんとうに心地良い。



7. To make an Intellectually Safe Community.

オアフ島の裸の山を越えたすこし先。カイルア高校に到着した。

ここでは English の授業で p4c が行われている。

アイエア中学校でも English の授業でやっている。

国語の授業でもできるだろうか。やってみてもいいかもしれない。

学期のはじめだから、コミュニティをつくる授業をやっているよ。

と声をかけてもらった。確かにコミュニティをつくる授業だった。

1. Community, Inquiry, Philosophy, Reflection の四つの言葉を板書して、ホワイトボードを四つの領域に分ける。
2. この四つの言葉から思いつく言葉を p4c Journal にあらかじめ書いておいてもらう。それをホワイトボードに発表。
3. 他の人が書いた言葉がしっくりくれば Journal にうつす。
4. This Class is About ... に続く文章を Journal に書いたすべての言葉を使って完成させる。
5. ポスターに表現する。

This class is about ... PEOPLE who WONDER & IMAGINE to find a DEEPER MEANING behind the truth to find the REAL TRUTH.

この授業では、本当の真実を手に入れるために、疑問に思ったり想像してみたりして、真実に隠されたより深い意味を探る。

This class is a community that challenges & questions the ideas of modern society.

この授業は、近代社会の考えに挑戦し、問いかけるコミュニティだ。

作業をして、授業の目的を自分なりに考える。
実際にやってみないと授業の目的も、よさも分からないよ。
そんな考えがあって、ふだん授業の目的やルールをあまり言わないようにしていた。

それも単なるこだわりだったのかもしれない。
カイルアの高校生たちは楽しそうに作業し、Community, Inquiry, Philosophy, Reflection という言葉から自分自身の授業への目的を明らかにしていた。

なるほど、こんなふうにしてコミュニティをつくるわけだ。

さらに、すごく大事なルールがさりげなく掲示されていた。

Intellectual Safety

すべての人が尊重される限りにおいて、探求の共同体の参加者はほとんどどんな質問も、どんな発言も自由にできる。

何度でも確認しよう。すべての人が尊重される限りにおいて



もうひとつ、考える練習として Inference ゲームをしていた。
なかなか興味深いのは、Good Thinker's Toolkit で強調される七つの Thinking のほとんどをこのゲームで勉強できることだ。

導入としてはなかなかの優れたもの。

推論ゲーム

1. Observable Fact, Assumption, Inference, Is it True? (Always, Sometimes, Never), Counter Example と板書して、五つの領域にホワイトボードを分ける。

2. Observable Fact から Inference させる。

「ケヴィンは鼻水が止まらない」 → 「ケヴィンはカゼをひいた」

3. その Inference の Assumption を考えさせる。

「鼻水が止まらない人はカゼをひいている」

4. その Assumption がいつも True かどうかを考えさせる。

「鼻水が止まらない人がいつもカゼをひいているわけではない」

5. いつも True じゃないときには Counter Example を考えさせる。

「ケヴィンはホコリを吸うとアレルギーが出る」

次の授業で、写真を見て Inference をする応用編をやるみたいだ。

8. Difficulties: Learned Helplessness.

髪の毛が半分ピンク、半分ブラウンの少年がおもむろに立ち上がり、反対側にいた女の子の席に向かって歩いていく。チップスをもらって食べる。何枚か自分の席に持って帰る。もちろん、授業中のことだ。

「ここにはどんな前提があるでしょう」。「この事実から推論を作ってみましょう」と先生に尋ねられると答える。でも、自分ではやらない。

授業が終わったあと Learned Helplessness と先生が板書した。もっと努力が必要なのに、教員が助けにいくまでは何もしない。すごく難しい。日本の状況も似たようなものだと伝えた。

言い切れないわだかまりを感じる。

日本では、叱るか、授業の後に話を聞かだろろうと話した。自分たちは話を聞くようにしているという答えが返ってきた。

日本では、学習性無力感と呼ばれる。心理学の概念。

長期にわたってストレスから逃れられない状況に置かれたら、その状況から逃れようとする努力すらなくなる。つまり、学習しなくなる。

救いはある。立ち歩いていた子は新入生のクラス。

三年生のクラスでは、みんなしっかりやっている。人は変わる。それを信じてやってみるしかないのかもしれない。そんな話をした。



9. "It's only the ocean and me."

深夜三時半、ハワイ。可能性に胸が震える。どうしようもない。あばらに囲まれた何かが高揚して、眠れない。格安ホテルの部屋を歩き回る。無意味にベランダに出る。部屋に戻る。腕立て伏せを試みる。眠れない。

仕方がない。外でも歩き回るか。

暗闇に包まれたワイキキの街。コーヒーショップで Mango ジュースを注文する。

What's your name?

Masa.

Masa と書かれたジュースを片手に海に向かう。

だれもない海。部分的なライトが砂浜をオレンジ色に照らす。濃淡のある黒い海の、深夜でも底が透けて見えるあたりに足をつける。海の冷たさと、なんとも言えないぬるさに肌が慣れていく。

腰までつかる深さに、足をとられながら、砂浜に沿って歩く。

Jがこんなことを話してくれた。

1980年代のこと、初めてハワイに来たとき、この海に不思議な感情を抱いた。

沖に向けて泳ぐ。

どれだけ泳いでも、波が押し戻す。

沖に向かう、押し戻され、泳ぐ。

そのとき、なにか不思議な感覚があった。

今でもそれは変わらない。

そんな話を思い出した。

ふと思い立って、海に身を投げ出す。

すべてが見える。まだ暗い空。浜に生える椰子の木。月。山の彼方からすこしずつ変わる色。暗黒から紺へ。赤が混じる紫。色が現れる。海が色に染まる。浅瀬が透明になるころ、世界は色で満ちる。

教育は仮説にならざるをえない。問題は、仮説をどこまで信じられるか。

やってみればいい、どこまでも。

できるまで、信じてみるしかないだろう。

30年かける価値がある。

飛行機の時間が迫っていた。

